

「海の声キャンプ～海の声を聴こう！ちょっぴり離れてみませんか～」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
10組	4組 12名	4組 12名	4組12名 (福井2組5名・大阪1組4名・愛知1組3名)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭湾での海の活動を通して、親と子がそれぞれに自然体験を楽しむ。
- ・親と子どもが同じ敷地で活動しながら、少し離れて過ごすことにより、親が子どもの姿を再発見する。
- ・海の体験活動を身近に感じてもらい、今後の体験活動への意欲を高める。

◆期日・期間

平成29年9月30日（土）～10月1日（日）〈1泊2日〉

◆連携機関

京都市内保育園（壬生寺保育園、光林保育園、朱七保育所、知真保育園）

◆参加者分析

今回4組12名の応募があった。事業の中でこのようなキャンプに参加することや野外活動の経験の有無を聞き取ったところ、若狭湾青少年自然の家や近隣の青少年施設の事業に参加された経験があり、野外炊飯などの活動経験のある家庭であることが多かった。

このキャンプに参加することで、自然体験だけでなく、いろいろな人との関わりを通して、コミュニケーションなど人とつながる力を付けてほしいという願いを持っている保護者の方もいた。

◆企画のポイント（日程・特色など）

当初の計画は上記のとおり変更を余儀なくされたが、変更後の実施時期については、参加しやすさや他の事業との兼ね合いも考慮し、「若狭湾 海フェスティバル」と同時開催とした。

キャンプの特色としては以下の3点を挙げる。

- 親と子どもが別々に活動することを通して、子ども同士のつながりを深めたり自立を促したりする。
- 保護者には、シーカヤック活動を通して若狭湾の海を満喫し、自然体験活動の良さを味わってもらおうとともに、少し遠くから子どもの姿を見ることで普段とは違う子どもの様子を再発見する機会にする。
- トビーホール（体育館）でテント泊をすることで、天候に左右されることなくテント泊を楽しんで体験してもらおう。

海の活動体験推進プロジェクト（S.E.A.プロジェクト）

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9月30日 (土)	受付	オリエンテーション	昼食	はじまりのつどい		海活動 子ども：磯遊び 磯観察 保護者：シーカヤック		夕食、入浴		テント設営	自由時間 ※おさかな講座への参加も可		就寝
	6		7	8	9	10	11	12	13				
10月1日 (日)	起床	荷物の整理 洗面	朝のつどい・浜散策	朝食	テント片付け・清掃		野外炊飯 (カレーライス)		解散				

◆運営のポイント

○安全上の注意

- ・海の活動については2つの注意点に絞って話をした。
- ・安全上の注意については親子一緒に聞いてもらうことで、子どもは緊張感をもって、保護者にはライフジャケットの着用の仕方や安全面での配慮等を知ってもらう機会にした。

○子どもたちの自立を促す支援

- ・ボランティアスタッフとの間でプログラムのねらいや流れを確認し、子どもたちの様子についての情報交換や支援の入り方について打ち合わせた。
- ・活動の初めに全体説明を行い、活動の見通しや安全面での注意事項を伝えてから活動に入るようにした。

○親子別のプログラム

- ・自然体験活動を通して子ども同士のつながりを深めること、自立を促すことを目的として行った。
- ・親自身にも自然体験活動を満喫してもらい、今後の自然体験活動への意欲付けとなるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	100%	0%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	67%	33%	0%	0%
海の活動はどうでしたか	67%	33%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- 普段できない体験ができた。
- 生き物観察など、親子で楽しむことができた。
- 同年代の子ども同士で遊べたこと、自分たちのテントを設営した子をも喜んでいた。
- 親子別のプログラムがあったことがとても有り難かった。
- ライフジャケットを付ける意味を話すきっかけができた。
- 子どもは寒くなって早めに海からあがることになったので、親の時間に合わせてもう少しゲームや工作などの工夫があると親もゆっくりと海のプログラムができてありがたい。

- 簡単なファミリー紹介の時間があってもよかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- 子どもたちの海活動では、自然体験を満喫するだけでなく、すぐに仲良くなるなどつながりを深めた。親同士の親交にもつながった。
- 子どもたちはテント設営を率先して行ったり、野外炊事で薪割りや野菜切り、火おこしなどを大人に頼らず自分たちで行ったりすることができた。
- 親子別プログラムでは、子どもの自主的な活動を促し、また、保護者には自然体験活動を満喫してもらうことができた。
- 海フェスティバルと同時開催としたため、プログラムの共用が可能だった。また、海フェスティバルの参加者の中にも興味を持ってもらった家族もあった。

(2) 課題

- 自然体験活動の経験が少ない親子にたくさん参加してもらえるように、内容の改善や広報の工夫を図っていかねばならない。
- 子どもたちの海活動について、時期的なこともあり、寒さ対策や早めに切り上げた時のプログラムを考えておく必要がある。

5. 活動の様子

○磯観察、おさかな講座への参加



○保護者へのシーカヤック活動



○テント設営



○野外炊事

